

調査概要

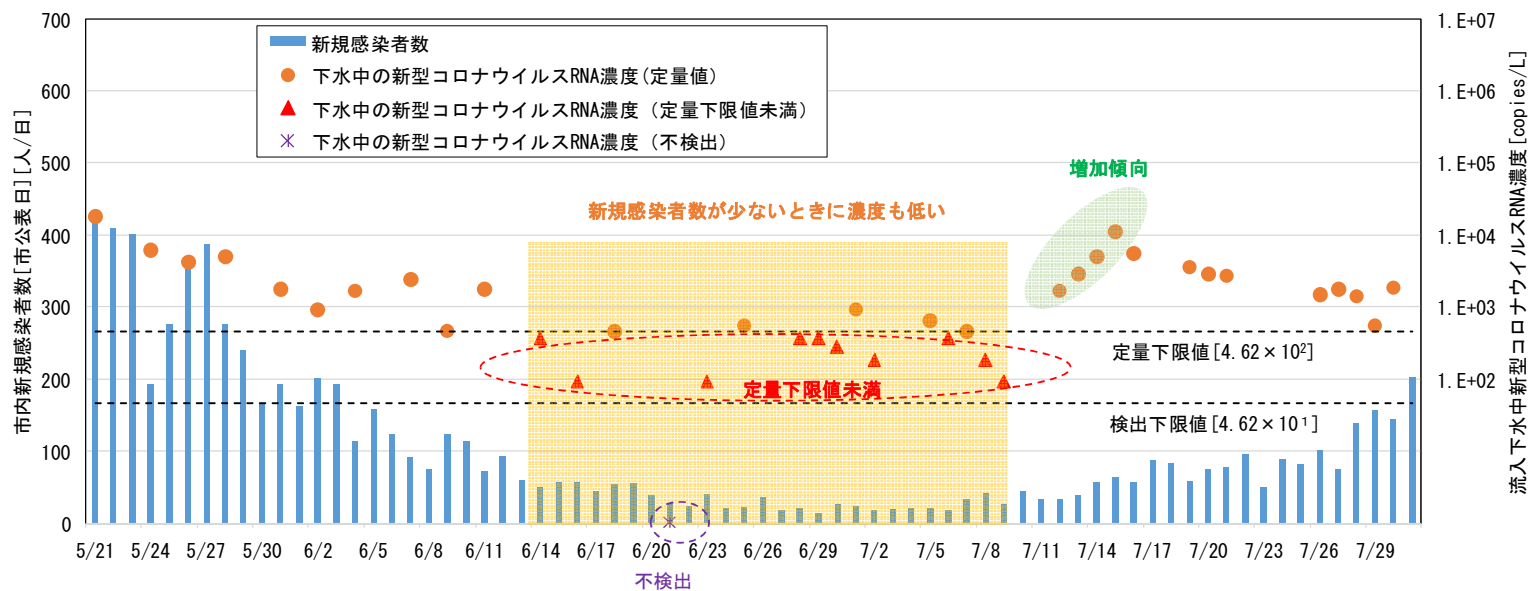
- ◆ 対象処理場 : 4自治体×1処理場
- ◆ 頻度 : 3回／週または5回／週
- ◆ サンプルング方法 : コンポジットサンプルング
- ◆ サンプルング時間帯 : 1～2時間おきの採水を24時間分混合（定量混合）
- ◆ 期間 : 5月末～7月末のうちの1カ月～2カ月

対象都市・処理場

対象都市	期間	サンプルング頻度	採水方式	分析手法
札幌市	5月末～7月末	5回／週	2時間ごとコンポジット	北大・シオノギ法（仮称）
仙台市	7月初旬～7月末	3回／週	1時間ごとコンポジット	沈殿物抽出法（仮称）
横浜市	6月中旬～7月末	5回／週	1時間ごとコンポジット	沈殿物抽出法（仮称）
I市	7月中旬～8月初旬	3回／週	2時間ごとコンポジット	北大・シオノギ法（仮称）

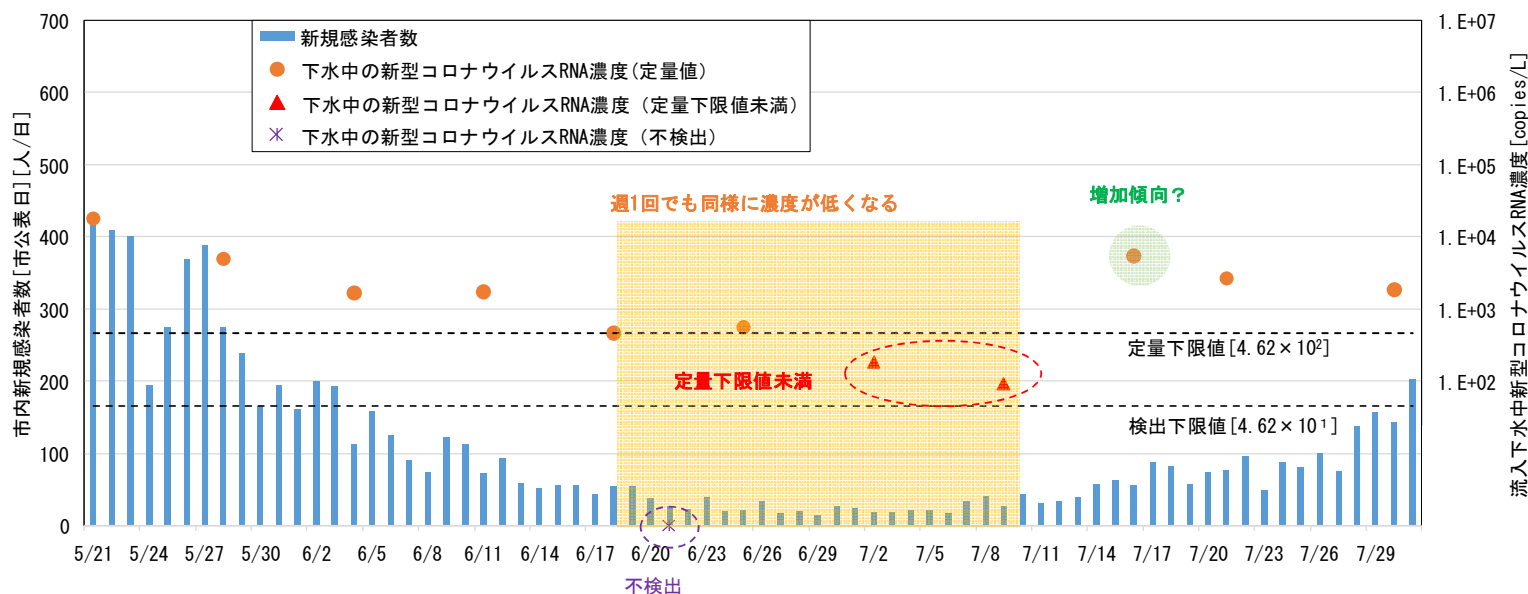
※仙台市、横浜市、I市については分析中のため、今回提示は札幌市のみ

短期集中調査結果（札幌市）



●短期集中調査

7月初めにコロナRNA濃度、新規感染者数の増加傾向が見られる。
6月に定量下限値未満が継続した場合は新規感染者数が少ない傾向。



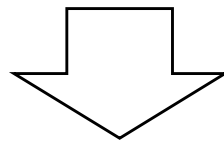
●定期調査のみ(週1回)

7月初めの不確実な検出下限値から定量下限値を超える増加傾向を明確に判定しづらい。検出下限値を超え、定量下限値未満の濃度は信頼性が低く、明確な結論が導きにくい。定量下限値未満でも陽性頻度が増えると濃度上昇の判定の信頼性が高まる。検出時は新規感染者数が少ない時期。

短期集中調査結果について

結果

- 札幌市のみの結果であるが、流行状況の把握は、採水及び分析の頻度が高い方が行いやすい。



現状のまとめ

- 採水頻度を上げた分析を行うことで、検出下限値を超え、定量下限値未満の不確実な濃度であっても新規感染者数の増加傾向及び減少傾向などの流行状況を把握し、他の指標と併せて用いることで行政判断がしやすくなる可能性がある。
- 仙台市、横浜市、I市における分析結果を踏まえ、整理及び検討を行う。